

アートに極めて 次の目標はラスベガス

フリースタイルフットボール ALEG-Re (アレグ)



▲山本さん(左)と守島さん(右)

サッカーボールを使って、リフティングやダンスの要素を取り入れたアクロバティックな技など、音楽に合わせた自由な発想で技を競う「フリースタイルフットボール」の世界大会で、舞鶴市出身の山本佳史さん(25)と守島裕二さん(25)のチーム「ALEG-Re(アレグ)」が優勝し、アジア初の世界王者の称号を掴み取った。この度、本市の優秀スポーツ賞特別賞も受賞された二人にフリースタイルフットボールを始めたきっかけや魅力を伺いました。

ボールを操る楽しさ

山本さんが小学校6年生のとき、倉梯小から新舞鶴小へ転校して同じクラスになったことが二人の運命的な出会いのきっかけ。共に進学した白糸中でも仲間たちとボールを蹴り、高校時代には、下校後、毎日のように前島ふ頭の広場に集まり、街灯が消え、ボールが見えなくなるまで練習に熱中。我を忘れるほどボールを操る楽しさにのめり込んだという。山本さんは、ブラジルのプロサッカー選手がピッチで魅せるトリッキーな技に魅了され、舞鶴では誰もやっていなかったこのフリースタイルフットボールで世界一になろうと決心した。また、守島さんは、山本さんの影響を受けてこの競技に励んでいくうちに、自分たちが表現したいことを自由に極められるこのストリートパフォーマンスの無限の可能性に魅かれた。

磨き続ける技 世界大会で披露

45か国250人以上のプレーヤーが参加した世界大会(チェコ、8月23日〜29日)では、二人のチームで3分間プレーする「ダブルルーティーン部門」で優勝。二人で息を合わせたシンクロ、音楽に合わせたコンビネーションなどアートの高いところが評価された。法被をまとい、三味線に合わせた新たな技法を決勝まで温存。戦略を練って勝負した結果、世界王者に。「予選では常にドキドキしたが、力を出し切らないで終わるのは嫌だった。決勝で力の全

てを出し切れた」。演技の終了と同時に、会場はスタンディングオベーションに包まれた。自分たちで考えた舞台仕掛けとパフォーマンスの融合が世界で認められた瞬間であった。

未来へつなぐ思い

現在、舞鶴から関東に拠点を移し、テレビ出演やイベント活動を展開する一方、地元舞鶴で子ども向けのスクールを開き、地域での競技普及にも一役を担う。子ども達には「まじめに取り組んでいけば、世界のステージに立てるということを知ってほしい」。

これからは、サッカーボールだけにとどまらず、違うジャンルでも新しい仕掛けと構成を考えて、新たなパフォーマンスを模索中。「この競技は、ルールを決めればオリンピック種目にもなるかもしれない反面、芸術的な表現の幅は狭くなる」と二人は話す。誰でもできるプレーを高いレベルでできるようにし、同じ技でも「アレグがやるからカッコいい」と言わせたい。将来はエンターテイメントの聖地であるラスベガスの舞台に立ちたいと熱く語った。



▲世界大会「SUPER BALL 2015」

関東以西の産地の林縁などに生えるつる性の多年草。莖はつる状に長く伸び、他のものからみつき、葉とともに黄褐色の毛が生える。葉は互生し、三出複葉で小葉は倒卵形のひし形で先は尖る。



タンキリマメ (マメ科)

見ごろ 11月頃

夏、葉腋から短い花柄を出し、黄色の蝶形花を5~20個つける。豆果は長さ1.5釐位、秋に赤く熟して裂け、黒色の2個の種子を放出する。名前の由来は、「痰切豆」で、この豆を煎じて飲むと痰の切れが良くなると言われることから。

【協力】瓜生勝朗 市文化財保護委員 (植物分野)

